



『シロツメクサはともだち』

鈴木 純/著
ブロンズ新社

公園や道ばたでよく見かけるシロツメクサ。白くてまるい形は、実はたくさんの小さな花が集まってできていることを知っていますか？花をばらばらにしたり根を掘ったりして、シロツメクサの秘密に迫っていくと、植物の不思議や生きるしたたかさに驚かされます。

シロツメクサが話しかけてくるような、近い距離で撮られた写真も魅力的です。



『ちきゅうのかいだん』

松岡 たつひで/作・絵
金の星社

ふしぎなドアを開けると、下に続くなが〜い階段。これはどんどん時代をさかのぼる「ちきゅうのかいだん」です。ガイドのはかせといっしょに、現代の生き物があらわれた2万年前、原人がいた78万年前、恐竜が滅びた6600万年前、陸上に生き物が住み始めた4億年前へと降りて行こう！

1冊で46億年の地球の歴史を見ることができる絵本です。



『黒部の谷の小さな山小屋』

星野 秀樹/写真・文
アリス館

黒部の険しい山奥に、4か月だけ客を受け入れる山小屋があります。冬の雪崩に押しつぶされないために、毎年夏前に建て直される山小屋の、建設から小屋じまいまでを写真家の星野さんが追いました。危険がともなう作業でも、登山者の笑顔を思いながら懸命に作業する人々の情熱に胸を打たれます。

深く美しい自然と、人の力の凄さがひしひしと伝わってくる写真絵本です。

図書館おすすめブックリスト

2024 年8月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ハート

ココロふるえる本との出会いで ♥ フル充電!!

No.26 小学1～3年生向け



『エビフライのしっぽたべようクラブ』

平田 昌広/作 平田 景/絵
文研出版

ともちゃんは、エビフライのしっぽが大好き。こうばしくて、とっておきのスナック菓子みたいだと思っています。けれど、同じ班のみんなは誰もエビフライのしっぽを食べません。それどころか、エビフライのしっぽを食べることを「へん」だと言われてしまい…。

しっぽのおいしさを知ってもらおうと、歌を作ったりするとともちゃんの作戦がとてもユニークです。



『そんなことも知らないの?』

パク・ジョンソプ/作 なかやま よしゆき/訳
フレーベル館

カラフルな小魚たちが、大きな魚のように群れて泳いでいます。それを狙うはらぺこのアンコウは、ウソ情報で小魚を分裂させて次々にパクリと食べてしまいます。デマを流され仲間が減っていくうちに、小魚たちは疑問を感じはじめます。

世の中にはびこる無責任なウソやデマ。情報を信じこんでしまう怖さをわかりやすく教えてくれます。



『まほうのアブラカタブレット』

如月 かずさ/作 イシヤマ アズサ/絵
PHP 研究所

タブレットを使った授業中に、こたろうは不思議なアプリを見つける。アプリの案内役・タブーに教えてもらい、写真の色や見た目を加工すると、なんと現実の世界も写真と同じように変わった！面白くなって使いすぎたこたろうは、タブーにタブレットの中に閉じ込められ…。

身近な道具が巻き起こすドキドキの展開。あなたはこんなアプリを見つけたら使ってみたいですか？



『わたしがテピンギー ハイチのおはなし』

中脇 初枝/再話 あずみ虫/絵
偕成社

テピンギーはいじわるな継母と二人暮らしの女の子。ある日、継母は森で会ったおじいさんに、テピンギーを召使いとしてあげる約束をしてしまいます。これを聞いたテピンギーは、クラスの友達の家をまわって、あるお願いをするのですがそれは…？

南国の風景と女の子たちが、色鮮やかに生き生きと描かれ、元気が出てくる昔話絵本です。



『ここがわたしのねるところ』

せかいのおやすみなさい
レベッカ・ボンド/文 サリー・メイバー/作画
まつむら ゆりこ/訳 福音館書店

世界各地の子どもたちの「寝るところ」が、刺繍やビーズによって細やかに描かれています。船やハンモックの上など、その土地の風土によって寝床はさまざま。あたたかみのある刺繍からは、世界の国のすべての子どもたちが、穏やかに安心して眠りにつけますようにという祈りが感じられます。

世界中で戦争や紛争が起こっている今だからこそ、読んでほしい絵本です。

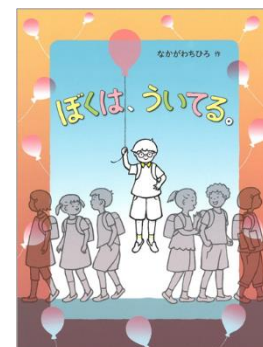


『かえでちゃんとひみつのノート』

大久保 雨咲/作 植田 真/絵
小峰書店

「もじゃりん」は、転校したばかりのかえでちゃんのため息から生まれた生きもの。前の学校のともだちがくれたノートに、かえでちゃんが描いたひみつのともだちです。かえでちゃんが話してくれる学校のできごとや悩みを、「もじゃりん」はそっと見守っています。

「あたらしいともだち」ができるまでの期待と不安を、ふんわりつつんでくれるお話です。



『ぼくは、ういてる。』

なかがわ ちひろ/作
のら書店

ときどきういてる、一平くん。周りの人たちからは、ぼんやりして見えるようで、からかわれたりしかられたりすること。でも同じようにういている山田さんと出会って一平君の日常にも少し変化が…。

一平君が自分とは別の「ういている」相手と知り合い、相手を思いやることで、世界がどんどん広がっていく様子が、ウキウキとした気持ちにさせてくれます。